

クリーンエネルギーで「灯セ」 73年ぶりの巨人戦を

国内最大の発電会社であるJERAは、洋上風力を柱とする再生可能エネルギー事業による、脱炭素と地域活性化の両立に全力を注いでいます。基盤の一つが青森県や秋田県をはじめとする、東北地方です。



提供：JERA



「JERA Next b.p.」を設立。グローバル展開で培った知見を、日本の地域社会に還元する「グローバル（出力計315メガ・ワット）と2030年の稼働を計画する青森県沖の日本海（南側）（出力615メガ・ワット）。秋田

その実現には、稼働すれば多くの電力を生み続ける洋上風力発電が適しています。一方で、洋上風力発電の開発・運営には専門知識が必要です。グローバルに資源開発を行う英エネルギー大手b.p.と洋上風力発電事業を統合し、

には部材を積む2500トンの巨大クレーンが設置済みで、風車の基礎建設に向けて動き出しています。青森でも、地質の安定性などの調査が進んでいます。いずれも重要なのは、地域の理解を得ることにとどまらず、地元の方々に共に喜んでいただける事業として確実に進めていくことです。一翼を担うのがJERAが取り組む「灯セ、ナイター」です。さらに、JERA Next b.p.やパートナー企業と共に、地域活性化に向けて、洋上風力の保守・点検をはじめとする雇用など経済貢献のほか、環境教育、祭りへの参加といった活動にもまい進しています。



JERAは2050年までに、再生可能エネルギーとゼロエミッション火力で、発電時のCO₂排出ゼロを目指します。
詳しくはこちら

JERAが注力 再エネ事業と地域活性化

JERAは2015年に東京電力と中部電力の火力発電部門などを統合して誕生しました。脱炭素の流れが世界的に進む中、CO₂排出量が比較的に少ないLNG（液化天然ガス）、水素系燃料、そして洋上風力が柱の再エネでの発電事業に注力しています。化石燃料の少ない日本にとって、再エネは貴重な国産資源です。国内最大の発電会社として、多様なエネルギーのベストミックスによる安定した電力供給と脱炭素を両立し、日本での再エネの「灯」を消すことなく地域を活性化させるという使命を担っています。

北海道、東北で進める 洋上風力発電の建設

©男鹿・潟上・秋田Offshore Green Energy合同会社



洋上風力は発電能力の高い巨大な風車が設置されるため、クレーンも相応の2500トサイズです。機材の吊り上げ・運搬に使用します。

巨人の一軍試合が青森県で開催されたのは73年ぶり。光星学院高校（現・八戸学院光星高校）出身の坂本勇人選手をはじめ両チームから青森ゆかりの3選手が出場し、球場を埋め尽くした1万596人の観客が声援を送りました。試合の始球式に登場したのは「灯セ」プロジェクトアンバサダーのQuiz Knockを代表して、「クイズ王」伊沢拓司さん。5回終了時には、ドローンが「灯セ、みんなで」を夜空に描きました。球場周辺の6球団のマスコット

「灯セ、ナイター」は今年、弘前をはじめセ・リーグ6球団の各1試合で開催されます。CO₂排出量を実質ゼロにする仕組みは「環境価値」の売買です。これは電力そのものの価値にプラスされる「CO₂を排出しない価値」の取引で、第三者機関が厳密な基準で判断し、その証書の購入者にはその分のCO₂削減が認められます。JERAをはじめとする電力事業者は再エネ拡大への新たな資金を得る、購入者は気候変動対策への貢献を消費者や投資家に示せるというメリットがあります。

「JERAクリーンエネルギーで灯セ、ナイター」の仕組み



*市場を通じて

青森県で開催のナイター CO₂排出量を実質ゼロ

セ・リーグの6球団が 「環境価値」を購入

